

こどもイベントをかんがえよう！

若林区中央市民センター

「わかちゅうワケあり雑ガミ部ーザツがみであそぼう！」

1 事業概要

当初、企画員と共に「子どもずもう」を企画・実施する予定でしたが、コロナ禍での様々な制約のため「子どもずもう」の開催は断念しました。そこで、募集して集まった3名の企画員と共にこどもイベントを考える所からスタートしました。企画会議では、「縁日」「おさがり会」「いなご・ザリガニとり」「雑がみあそび」など親子で楽しめる企画が提案されました。その中から、せんだいメディアテークで開催している「雑がみを使ったコミュニティづくり」を参考に「ザツがみであそぼう」を開催することにしました。



コロナ禍のため、親子での活動が減少していることを受けて、親子で活動する機会や親子同士が交流する機会を設けて地域の親世代のコミュニティづくりにも寄与したいと考えました。また、SDGs（持続可能な開発目標）について学び、考えていただく機会にもしたいと考えました。

2 今年度の活動

6回の企画会議を実施し、開催日時、対象、内容、役割分担について話し合いました。3回目からは、南小泉小学校を事務局として子どもに関わる様々なイベントを企画・実施している「南小泉パパネット」のメンバーにも参加していただきました。「クリスマス」をテーマとし、事前にクリスマス



ツリーの土台を作り、雰囲気盛り上げる工夫をしました。また、せんだいメディアテーク(公財)仙台市市民文化事業団には企画のノウハウを教えていただいたり、お手本となる作品をお借りしたりしました。また、仙台市環境局家庭ごみ減量課にはリサイクルについてまとめられたパネルをお借りし、参加者の方たちに見ていただきました。

雑紙は、文化センターロビーに講座の趣旨を掲載したパネルと回収箱を設置して、地域の皆さんに提供していただきました。予想を上回る量の雑紙が集まり、反響が大きいことが伺えました。

講座当日は、未就学児から小学生までの児童とその保護者10組30人が集まり、クリスマスに作品作りをしました。たくさんの雑紙は、ピクニックのお弁当、暖炉のあるお家、魔法の杖、本物そっくりのへび、自動車、パズルなどに变身し、子ども達の想像力あふれる見事な作品に生まれ変わっていました。出来上がった作品は、1週間館内に展示して地域の方たちに見ていただきました。

3 成果と課題

講座当日の企画員は、参加親子への用具の貸し出しや雑紙選びなどを手伝い、安全に配慮しつつ温かい雰囲気づくりに努めていました。

参加した親子からは「とても楽しかったので、またやってください！」「子どもたちだけでなく大人も楽しめました」などの感想をいただきました。作品を見た地域の方からは、「こどもの発想力に感動しました」「自分もやってみたい」などのメッセージをいただきました。コロナ禍でなければ、展示会場でワークショップを行うなどもっと多くの方に参加してもらえらるイベントになったことと思います。



4 今後の展望

反省会では、「来年も子どもイベントをやりましょう」「屋外での活動もいいかも」などの意見が出ていて、「子どもを中心にした地域住民のつながりを作る」ための一歩になったことを企画員自身も感じたようです。今後も企画員とともに、親子を見守り、協力する地域住民の輪が広がっていくような企画・実施に努めていきたいと思ひます。

